かゞみ

宇治巻　八

哥七首を名らきわ

へ12
20
44

門 別 72
號 20
卷 4744

其六四月ノ末より秋まで
くこゝろはくんぐ深草ノあさとをまとめてゝ
行先相沈
ゝ物思の姿ぞの人まめすまれてゝんけ
やうもれいづくもいひつげず母ゝ
使のくゝぶるゝ
人ゝをゝをゝ母ゝ
ゝきゝくゝつゝひのいるゝゝゝゝ
めゝとゝうゝめゝあゝゝゝまゝゝゝ
ゝひゝゝゝくゝゝぶゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まどろまれぬるあけぬるやこひ（恋）ごころ
とけてもこぬまれるをそこれつゝ心もれい
るぶうてぬるをいとおそろしくまよへ
つゝせ給へんこといちくもれどそのほど（家）は
むえなりそんそみいる面ゆり給めべきれじちぶ
ありよべ（昨）のれうをもあけてそ出をいとゞく
なくされ（たを）だよろぼそこと宮に給ろう我は
るどゝいたくれるまつくのゆりけんおされ
うゝ行より嵐ろろとれまうとるくゝり
ぶりへぶてるてたしゝひうる今いうぶりの
こちうゝも我をくうゝうをどゝるこれ給い

ぶりけうぶつゝさとくさうるあゝずるといふ
ゝるをゝてるくゝ面ワうゝさまがのやうもいうゝく
ぶゝうれ気色いゝ（たゝ）ぶりワうれどゝけてもく
るべてるゝずおぶろくゝゝゝとおぶゝうゝん
れとたゝしぶりつる人のれ心ゝ面をるをいうま
うゝつゝとるゝとぶつるくいゝゝめれゝ月中
中れもぶでゝぶれゝゝ面ゝをんくゝとぞ
いゝれけう（白ん）家ゝもいゝ例ちるゝ気色ありゝれ
色りいうゝゝふるゝん我をゝすゝゝあひゝゝろゝ面
るゝゝおゝるゝろゝりのゝゝゝくゝうゝゝゝ
れぶゝゝくゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さてぞてれつひあり（宮流）あうぞりちさ由うつ程よ
さて（白仮）れ文まえなとずいうるるぞとでとなよとへど
（傍ナ寸行）うへのこのひ紙（ふハウ）ようを結よされば拍も笑て結つず
それもしきへもおつ　まうめありちればさまひ
結へぐいぐまるあうてちんまぐひ結といい
（白仮）ちるもかくちめとのことて　ぐそーういとぐで
ありめぐくちんとりさせちるゆ発とばして
いとあやーいくーワぐーふともちうず日ぐろちや
まーとのこきーぐ　唯日のうりうとはさると
げとちてつるりもおうーげちりーまれとく
ねげーやるくちけまげ（白行）ばけ方いさて氣色ぐーう

ちるくとひきけとのの人べ（晴方行）れたる（恙）愛いうすう
くうくちる結ことはけんぞ　ちるすまれをちうちり
ちぐいまーめあはをくうとて下べのまり出ろ
をもことめとひはちればくりふくちるて
時方まりうくんを　まあ実はうばーあい
すうくちるどやはくん　さてまはうる人のうを結
つくん一あいちるうくはぐーくへちぐはくんをと
（白行）くくちていいとねばつるくてやあんれ
とくくうべさ海ようまへて何のくろちれふ
はくちるどるあのていくるるくをくいつぐと
あふいをよドをいひぐともいちりとのの人べ

いとおもしろき世界もうづけるくてゆうつる
やうすきひとくいとくいさつつあ面すてり
やさこれどつりおるさつあまやうれてだすれ歯まて
さこれが人おほく立さはぐてこしひやどて（はを おさあ）
なりちりちぐいをを（時方ん）くゆちもあきまくく芝石
たとさきうてこさこれどもえあはず（をを汁）今まの
芝しずおさあぐんゆちもぞちんさろさこあ
だりこそくもこちりあ治りあえここあこく
いをこうり（時方汁）さりとてくあづつるくてしいぐ
四治ん今一和ずよとをちよいれが治ぞ
あひうりり（後汁）ぶとあまうくあづしもあへめこ風

まてうを治ようれべいこぐといまもあうず芝の
やうまてこれもくまぐひ治りりりせまへ
すてゆちものどめ治てちん目びも和芝てうり
つうこ風一来いと心ぐてしと心芝ゆりし有私
ちぐも芝こをを治べきこみけぐこひちぐ人のいと
治ぞ風ぐるて今一てび立りりへとひてるく
こいこぐうちまもるくこぐのうてめれと
るべしあ（あを汁）ぐんやいづくるこりおりしまめる
こりこまへむちるこをぐるこ生あがひ
るくこるこも有れ風れここまりて
あず芝くこまひいつしりかひあるれこ風を

こせきんとあるこゝ夕まぐれ時のうりこそ
いのちものびぬつれおもてなすてゝ山里もたゝき
ぬるこゝろ　鬼神もあぐまをぞえらべどせう
ど人のいとゞくあはむ人をば寿命もうへし
ぬるりあぐまとりせきんん人はまれどまれ
ぬてはまれおもされうとをもこせきんといひつゞく
ゆがこゝろあるこゝとぐもまぐるをとおやこゝとて
牧のくまへぶ人のくるくしも実もあるうこゝ
うよこゝこゝりきんとれ男のこゝろはいぐこゝて
こきあつれ使ちり今はこゝもくてもひあるこ
こゝちれど後まもこゝうめあはすこゝ乃

ぬるんよぐあつくまぐらは寄りこんれ使乃
つこゝちうべし文こゝりこゝもこれまをあて恋ぐらは
射面をこゝく作れつれ心ぐんまぐこゝけあて
こゝはあぐされずや女のこゝちはまぐひ絵こゝは人の
れ門まあるこゝぐ文こゝうこゝぬせこゝ
うこゝぐこゝんこゝはこゝいつるぬげはいく表あるれ
使はこゝあれうくすこゝ使こゝをぐくてれいこゝあ
くのこゝ使をのづくこゝ実くちんこゝこゝちぐこゝいさ
こゝこゝも人やくいはこゝうあるんこゝぐこゝうぐさ
こゝあるんまはぐやこゝもあるこゝぐまぐひぬるん
同ぐこゝいこゝぐくぬこゝこゝいこゝりこゝぐれ

蓋
屋のつづくてげに清のあり
ありさまはかなきまでて結人もうくのさろめれと
ちどもくづめりそりそめうしくるまづ
結さんとるんいそぶこちてばれこと（結白うう）をど人されぬ
さ面よのこうこうでけるくおくれとさこうえさ
めりしよれ心こうれけるるべしおさまして
心と分をるくるるめるやうるれぶくこうさ
まどひよびくさくいひてけるるありと
さするまるるばはのあ浪心（男）ぐくさて
さいのどるまんこちるぐ結ものとと
そぐこうやう也今れこびうるおうきあと

つへじ（結三司）あれこうでけおふまこう人のこりこうこ
さもんもるされこるは中こりでこれすくもこる
べこさこうれどこのび結しこうればこうこ
さを結こでやまを結こんちん心ざしこ結ざこ
こうはくこびけうを人こうこを人よ
こうをじどころびよまざこうすをざひんり
こうどまれこうこもこそこれとこへどこくこど
のこやは

あれいとゞりつるまぎれよ母君のわたりのへを
世人
さらよいそんるさもるくめれまへよるくなりあ
らんうるーさは。いそゞくとをれつゝまそぐ
ひあはるるるり。これいいるきつることぞとまぎふか
うることだけまぎれあるりていとゞう袖も濡るん
さもこれば。男とるげ濡へうんとまをもうしば。
男やうひつんこうるめくもれやうりまてあ
らん。ひゝ袖ぐりのあやちき袖のるれさひよ
う。さやうるうるもいふなりしとちづさていふれ
ちそろ〜とも男やうあうりよころるどあーき
はめれとやうのもれやうむへ濡べしとやうてか

ざゑしづりてだづねるに
とうづひ今まのりのんきゝぬやあるとえべいと
世ぐるれとりとておりちあひといこゝて
ちるきるもえをぞ今とくまいんといひて分
むみなそれいそぐべきるどもるどづもぐつて
人り出待のとてまとりあるへぐをえを
るくていと人ずくなるりまちんをろ結浪
などこそぼろれはそきいでぶとうるひ
てゞやるどなきいり結しおりくれあるさ海ゞき
ときのへるをもるるまるきうげるとうれすひ
うまへ所ものゝ次のるこうさまあるとみつけて河の

ろことみやりつゝひぐきのゝちろあれとをとろく
まもうと海ゝくるゝとをつゝそうをあひえん
人ととくいひきはぞてゝいづくまもくいちちろう
ちまたなり結まろんとおゞゝうるづりんもいとれ
しれるといひあゝをて思ひ(たきも)ゝとゝてもはん
ゝりをろてあらゝるまちるぞおやまてるき
のちまきゝ結へりとも(ゝ)いとやうゝきかどるるあ
とありれまゝまをゝてゝうくいちゞくおゞつゝれ
ゝとゞもどをへゝるぐゝ出まゞひ結さ海へすゝあ
ちゝめちをもをゝむゝるくなり結ゝる人とゝもゝる
とをゝてもてあつゞみゝそよれつひなれゝゞづあ

袁さこそはどろも[illegible]さまうれあ[illegible]ぬ[illegible]
て今ハ世のつのしそぞよつくろりんとうこひて
びてありしさ海とこそゆうよいみひともこそしら
えいひやしび(冊)そくんちもまどひつさこのいと
あうまーとおもふ河まちぐれうと結よろうとこよ
よいぐく銀もおうちへめべこさんちしてあり(汀)まー
ひくんうこをこぐひてうとどこまちぐもくれた
さめんとのうまへど(たを汀)さうにるまれひ結うぢ切
ふもちうぬ大海の彩よこそおうーまーまけめさ
海もれうく人のいひつうへんこといとうこうく
しとうこゆれぢ(冊)うこ海ようぢ海よみまひ

乃さこさのぐうんちしていうまくもべこさ方
もれぐ結こめをこれ人ぐ(を結)みうしして車よせ
させておまーぢもけぢうつひ結しれでうど
ぢこみちぐうめぐさこれのへ海れもまるどや
うれ物どうりれてめれとごこの大こそれがと
ちのあぐうれでーのもまーこうるどもよ
ひこうりうう老法師などれいえようもべこさうぢり
してくんのなくちりうけいひまねびていぐー
ううをめれと母君をいとくくゆしとも
まろぢ大まうどりなどどーゆしーものだも
まりてれこうこうれこと(素)ハ蔵ようとのうーひうセ

始てはさぶめられていろはうこそつうまうえ
るどいひろれど（太平記）ことさらまこうひすぐせまぢい
とものびてとものやうあればなんとて此車を
むうひの山乃まへちうやりて人もちうを
ちをぢこれあるいちうし法師のうぢりして
やうぢいとちうくてちありかそめおのうぐども
ハ中こうぶこうとくくちるこうといとな
どかくすう拍をうればいとあやちう例のさ
やうなどあうるぢもしちぶいぢげをぐちく
あへるくてちれぬうちうれとそーアとれぞ
（さやあるとこ）うこへはちうへいとさうちうくちるん京れへい

ちのちうちるどさ海ぐくよあんやちうぢいひろう
（太平記）かぶ人どもれいひおもふとぢよつてまーきと
まーてものーちうてうれるさ世中よ（著）おれ我
ちうちうようちもくうせ拍ちうとうちせのうぐ
かるくずおもぶーうこぢみうるもあんと（白）ぞうこぶ
おちのぢれるくひおてさぶ人のおりれはをぢ
ちぢーそちのぶともおぼさ先つあるハうれあ
らぢ文さぢめて文（白）をうこぢひ写て拍いぢ
いうちう人うおてうーうんるどぞおぼーちん
うーいさ拍てのれすくをはいとけこくおを
人のげうるさうげはいうぢれたとをやうこぢれ

給そんとさへばこうれもうちるるとべどもまをげきれ
あいてしりつるまどひまどれもみそつる
まそこちごめ　ひかいきめはさうせどるどそ
あどうろるまどへてはこれまもきづやうあ
しさ海ともはてんこで今はるこ　さちめめ
べきこと　おとへんづてまこそめさんへ和いとく
おしうるべきすなるべしと山人　をを給ふ　おうりぞ　ある
くんのとまそひこれば　まてくしこそ　大ねぎは入
道の　実　ものやこ給それば石山はこもり給て　さだ
給比叡　さ　さていとど　宿　ことあばつるなうあば
しこれどこるぐしうさなんとはへいるり

そればうこはいうどきことまもまげれ使のなきさ
人めもころうしとやまみさうれ人なんまりて
ちうくとはさそれば　差　あきましきん他しのく
れ使それ又のはいまどつとめてまりうりいこどれ
ことはこくまよみづこうものすべきまるくなやこ　差
給こまりつてこそかはあはは日とうぞりてこ
こりそればなんよべのことはるどこうまとうそそ
してはとのべてもさはことはそうは他といところ
らうるこさ海まていうぞをこれまるこそてを
こてもあるどはみうひなのさるれどこちめれと
をしもやまどつのそこ　アル　さへおなんここれ

しあもうしるさるどうれむ（仲信の）つまーしる失乾大まそ
の給へり此使のさうまつげくをいとぐいうでる
まさこてんうさるさすどもれば毎ぐるぐ
におぐれうぐりとうぐりとまてぐうぐーうを
いへやらずるりめ（恵心）我い死いとあへうくいうでと学
給まもんうりうりとろうな鬼るどやをむん
るどて今まで学而まをへうつてんぶうずやう
をぐちのまぐれあるやうちーをくるちと紀
うまころやをくてべも（白す）いひをく給ちりうん
うとぐふまもづがうゆくよぐうぬこうのこうや
ちくはむれいくをそ給ちるやまを給あうりまかく

給とおぐーみぐうくもうてあれが京よりうれ
文（芸）のはうるまもつうり給いずとくちさかぐう
も給うねどゆーしをとと紙ちううさく給れぞ
んのうぐれ給うかどもいぐ海くもうてちど学し
給てつうきをずうちるくいうでこさ世となげる給
あうーさ海うちいとあいぐやうつうさかーうう
ーけうひちどのいうぐくを学ーくうれーうれぐうう
の世まいちどくーもいれぞのどうまてをぐー
うん学でいまいさーまどぐめんうるうきまーまく
やちうことのずーびぐうぬとのすぐまつけ
ていうでうれちべうすくせぬうり学海うとまうて

わざとうしなはれたるのやうくれいの人うて
ものゝふのほとゝ伝るどのまくしとみ結ますや人のを
をこさせんとて伝れたるぬの方便ハ蓋悪(ざひ)ともくきて
やうまこそいあるれとゝ(白)そつぐけ結つゝそこるひを
のこし結うれ(白)文たるゝまして二三日ハ拍もおぼく
結ぐうゝしゝ心をるきたまてうなるれもの
れけるんるどさうぐまよやうく涙つゝて結て
おぼゝもづまるゝまぐあうゝまゝ海ハゝひゝ
うゝらぐくもひいぐられ結るゝ人るは毎ぐれ病(やまひ)
乃をもるさ海とのゝみをてうくすぐろるうゝや
めれゝるきゝるせぐとゝうゝこくもてうくすと

おぼゝくれど(白)ものづゝいとるうるれがいうゝ
ほゝとまかくおぼゝまぐひれ命もあやうきまぐ
ちづゝ結めうんとゝいまゝもありくれぐゝれ(恵)ぬもも
いとゝくこのれゝるきをゝて結よ(恵)されぐよる紙
よそれみうゝうゝのゝまハあゝぬ成ゝう。みおても
るるぐさおぼゝぬべるまゝ人ぐゝうゝたるぐゝまま
しゝうべたぐちるゝうハ我ゝあまおゝやうゝとをを
出るるまゝとおぼゝをまなんゝこがほひ〇もすて
しゝうゝちゝうゝ結るゝ(白)文のれとゝあゝひまはぐは
まゝうゝ結るゝぬ人るく世のさうぐとなれうれゝとく
ちるゝゝうハるゝぬるひまゝるゝまりぬて来ゝざんも

ひごろうべーとおぼして、あり給ふ。それしろ式アマ
（源氏ノオモ）
家とゝさこゆるもう也給ふ。それば、はちぢのおぐまで、
うをよびなるもゝろのうちは、ゑよりもよそへられて、
つきぐしく、池ずゝおもやをていとぐ、ゐ海ち
ゝきゆまゝり給へり。くぐまり出て、きちやう
ちゝタぐれゐり。家ゆゝきづきそのこいるきはて
ちなれがうとくきくまゝそあひ給ふ。みものうち
まも側いり給へ人まハ、対面（たいめん）しゐりぶもあいぐ（美）ぐて
給ふんもあいゐくてまゝ。みゐ給（美を）つけてまゝ。いとぐ
海のまづをきぐさをおぐ（美）をぐ。ゐきづめておぐ（白）ろく
しきゝちまも給ふぬとゝれ人つきひ屋き

病（やまい）のさ海ゐりとのゝ池をそれぐ（今上）ゐ（ゐ名中文）もゝゐをおぐ
しちりぐがいとくゝくしくげまは世中のつねゐきを
を、ゐがそくゐ給ふとの給て、そゝのぐひうぐゝ
り給とおぐをゐるみぐは給やぐそぐゐるぐゐ
おゐれば、とゝゝきるけ（美）ぐかるぐしもいぐ
ゝゝ給ゑんたぐゝくゝゝろゝはよゝやん
ゆゝんとおぐ（美）すもゝり（美）やたぐゝれゐをのゝこた
ぐ池ゐりぐゝりゐん我をいゐまおゝとお
ゝゝひゝ給ゐ池ま月ぐおぐゝゝりゝんとまよ
まゝ。ゝれ君（美）ハゐゐゝゝは高給ゐりとゝ（白）ゐるくもをゐり
ゐりゐ池のゝちまおぐゆゝ時ハいとゝゝゝある

はつかやだよ京とおるれるさつてうるもも海
されてこそうるけれまぐかくすぐろまこころ
ろうさまつまてもをしんをえこんこいふだろ
ア畑れおれもうぬんうもあんび世中のつもな
きこと紙もこそ海人しもつれなることうう
やまくもこころまよくもおばうう地うまれ
ぐらいあれもりこれまひひこんさ海もお
ぐやはまうえぞうとうちまりはやう
やう世の畑後写ばまいとこてしもいあしとと
おぐて昔讨りうころまこあておぐもさこて
さもぬこのこて待うぐりいいとくのう

おまこまへられしと今ハ中この上らうまもり
て待りまてれいとまるさはありさ海まて
んのどうまおりまんおりも待しねが海ねもど
それこくなくていえさみこいぐそころとるくて
すぐ待てなんむれ後ぐ山星よろな
くてうも待ち人のおるぐゆりなろ人(ほ)をぬ
雨ま待りとをつけ待て時ごまでみつべくやを
も名へまあいなく人(さこう)のそこるも待ぬべうし
おりぬしうぐこれあやしこ紀雨まをさ待をた
さくまりてうるまもるくぐこれもなのよぐひ
とうまりひこのむ心もうしとまるこてやあうこん

とハ思はれどやんごとなくものくるしきすぢよ
ゝ〻まへハこそあ〻めゝみちよりこゝとなりとぢも
ゐらずなどして〻こゝろやすくらうゝとおもひ
侍つる人のいとゝなるゝまよりなりてけ世の
あらさまをとゝ思へつゞけ侍るまゝ〻くなんさ
うめすやうも侍るゝんゝとそいまぞなりさ侍
れもいとゝうハみゝくこゝてまゝ〻おこるゝとゝ
つ里どこゝろゞれそゝてハいゝとあゞされゝ〻きれ
いゝゝみゞりゞかるゝとおやゝくいとおゝと
おぼをどゝつれなくていとおりれなるゝとゝまゝこゝそ
ぬかのゝまゝて侍るきゝうゝとゝもさゝゆゞくゝも

ひ侍りるゞゝつゞゝとゝ人ゝまゝるゝ世侍ゝあぬるゝとゝて
侍ゝゝばなんゝとゝつれるくのゝうゝまへどゝいとゝゝへゞる
ゝれバゝとゞくゝるゝて侍ゝます。さゝゝうゝゝてもれ
らんどゝ世ゞやゝとゝ侍へゝゝ人ゝなゝんをゞづゝゝ
ゝもや侍ゝん。実ゝもゝありゝゝゝゝゝべゝゝゆへ侍ゝゝへ
るゞゝゝゝゝゝ

[illegible]ちよりてこそ
いまの世のいとびおりをざろと、見給人とても
ものめなるべき。さぬぐまつけて、うぢちるをひと
をきなさて、これはれうろとつて、よれ人をさは
ぶて、ぞ法どぞ、まつりそうへとみちぐまさへぐい。
これひとをおぼをゆりの、ぼこうちのあやまりは
しそはありなれ。我もかぐこりれ分まて時のみどれ
れむをめをもちありるぐらこの人れらうくれた
がゆうこさはをとりやはをつるまして今いとおぼ
ゆるふ心とのどめんうこたなくもあうれさうは
おこなりかうらしぐと、どなものれどさぬぐま

ひみぐれて、人ひとが木石はあるべきざれをこれ情あり
とうちぞしてみしうまへり後のちうれいうまめぐ
をいとをれくしてぐうちと、どやまもいうぐうく
ぬうんといとおくあへるく、毋てれなをとくを
うて、そうかうあるいなど、さやうの人いみうと
あううとおるひてことそぐちりうんうちどこて
ろづうくおぼをおぐつうかさもうぐうるうさをあ
まうんさぬもうづううそうぬうとおぼをどなのが
ごりしぬうんもびんるいうさというてうち
へうんもふぐうちどおぼ、ぼうふ、ぬうて
ふみをゆうそうとおぼ、出給ぬ夕暮いと畑

うつくしき花のえだをうりにきたる。
時鳥の二こゑだにうるさきてわろ。蔵よりそでと
ひとりごち給もあるはべ。白ノ音ニ
給はなりそれば。ちゞれとおゝせてきて給
茎
ものびねや君もなくゝんうひもかきそれ
角きまこゝろかよそ。白ハ女君ハ中ハ海乃いと
ほ
らくまゝとあくれとおぼして。二月なりぬめ給に
月なりりけ。紅あるあをうれとみ給て
白
ちゞ花のうるあゝいかゝゝぶれあるゝ
ものゝそるくべうりそれ。ひづゝりとうきを給

中山忍ぶ　白とぶらひ

ことのくさ〳〵さはらうて是ゆてぐち表
まあさまし〳〵れたりるさけど海ぐまつけてさろ
あうさるる。我ひとりもれさひさ〳〵ねば今まで
ちぐらあうまやそれもいつまでと心ぢそくおぼせ
白山家をくれるさ拍うらべぶて語よもいとくうて
くればおりしさ海ちぐすさいとりる紙つて
うう写し語中内うう語しげつうらしるどな
ちさ〳〵ひさ〳〵さし語よを白ごと人ありいむまま
く表ちりうとくくちくうりうりて倒ちるれば
ちとれさ海もおどろさまぐひ語取ちていれちう
ひの人さ〳〵ちかちぐちうとの君逆ひまちる紀

もいとうちさ。中ノ方とさ〳〵いとさろやをておう
うくぞおぼされろいと夢れやうよのさなを
いづでいとはうなりうるることはうはけをいづを
けをばれいの人時方でめてお近をひへまつりす。
ちうぐさもさうまれあの話けをひをきく
す。我もまろびへめべくうるくんうさとれ
とまうべくもあうねばいとわびしうてうち語
まうり念仏僧どもとうのもうもれていと
うすうなるい時方りさうれば時方とくちくまはうる立
めぐうしあねべどもみうぐめずおやうくう
うぐうれさびしをいれをうびるうまうらと心

いづくまいとおもひ・さぶまでさることをおもひて
ゐるてことくこそづつくてたてまつれどさてう
そてはおりて海にはいくれくれなる程いざう道
まち給て舟よのうち給へけりひのおてようつく
しうるてことちどとをろよろづの人ちく
衣ちり方迷おもしていとうるくまことにりもぐく
の給りせてはは侍まなりそうといへば海さら
まへもあやしといひふんまつてまいくまいり
てもどろぐちくそてめてあそこむぞろ
もれそそしそべきさんちまに侍ぞられいみ
そてくあそこ海まなんとへいひるそんも
すそまつうりうりめべきかどよるてそん
ちりかの余侍へばいそくふちづまんおりて
なんおほをどちくとも寄りげよいと義のやう
ちりしるどもうそ寄しまほしきといひ
てくふいうどくべくまあず大夫もるそて
まそれは中のことこそまちそそてさせ侍へず
柏のそろもちり侍へどるどうどひるき御ふ
ぎとみそてまつり侍へうば私どちをなるハ
いそぞてもそそてうけ給へんつみよハつう
まつうべきあそうまそとを給へしといひひな
くそうるへれはことれのちハウさそれは心ざも

仲こ[illegible]ゆきまさうてちるんとうらふ・ひぎとは車
ちどおぼ[illegible]しめぐ[illegible]て・そ[illegible]てまつれ[illegible]まへ海を
むる[illegible]くていとくおぼ[illegible]うなん・いまひとところ
まてもまうこまへといへば・後の君よびいでさは
まうなへといへぎ・まして[illegible]なごとをうはこうこ
ちをむ・さてもなほ[illegible]はいとこのわどまはいでうい海
せなりぬるといへば・なやませなほひぐ[illegible]きよ海ぐ
のほつ[illegible]しどをなれどいみあへさせなまぢれ
ほ[illegible]こさはなん・みくしあうきは[illegible]ハこうまう
をなてもこそおり[illegible]まくさめ・ゆりのはいくどくかな
らぎ・なほ一和まうりのへとせひれば・ぎうぞあり

[illegible]ほもいとこひ[illegible]うおもひ男ゆうよ・いう
ちるん世ようはみまるん・うほおりまとおもう
てまうりう・ろうきこうぬどもこてひきつくろ
ひうろうこちをいとこきよげなり・もはこいま我
ようこなるん人るまようちうゆうてをもうへぎう
きれば・うをきなるをもうきてまう・おりせまうば
このほまぞものびて出なはまう・人ものれぎ心よせ
こうこ[illegible]れをなぎ[illegible]ものを衰ちりうちする
ちるくくなんこうる・文はこの人まうまうとこて
しめほも衰なり・女君よはおまりうこてあれば男
え給はず・ちん殿よおりまうてゆる殿よおろう給

へり（白河）みくんさ海ちるどくんりーうとハせ給よ（後拾遺）ばごろれ
ぼーちるげるーにちまそれ取をるき給しーさ海おや
ちるさまでことずくちるよおばくくとのとまれしー給て
いるーどとおばをるをもも人ようちいで給ことハら
くまれてることのとも給しーけよやの給をくこ
とも給らび蓑よをうくんづよるさ海よおばし
くくんとハどくくまへどなん給ーちどくくうう
るるこゆ三バまん（白河）ていといるーどうさうべるさまて
ともうくもあくまーよんりもいるどり拍をるくちて
さ海ろよおばゆ三くんとおばーやるよこれをろ
けてるるさあたくまーうづどいるさうへぼんち

ーし給へどくひちるーば（白河）ばあをやるさうーなひ給ー
ちるどよちるどてめをるて給くどりくんちるど取ひと
よくくくひ写くあるす（後拾遺）うよ巻数（白河）ようるさうけのくくし
母君の西ーとちるどをるるる拍なるどりの拍ともれ
らんぎどりーくんも（後）ひちまーく表よおばるくれば
我（白河）ものまあれくーおるるるをもてちるべくやを
ののへバ（後拾遺）さてけくんよつけても拍のるちるくち
んをるのへれば今るれれるてちるどずくてと
るるこゆ（白河）ものもまいれちるどこの人をへあくばおばを
あ有へくよれば（後ノ）ばうるるとまうけさを給
へりくくるーのるを一くちひ衣ぐを一くちひ

をうち相はをうせ給ふ後ぐまをうせ給ふとも
なほうれどおどろくしうめべれば
ゑ人はなほぎろ行ちうろおまぐろまく
まりてぐろくぐまれあるを人をいぐうんず
ずるむつーきワざうれとさらぶれど いう
ぐはをうくへうん宮をとかうあびてこれ
つれぐるまーるう雨をうーしー
あつめうろうぐまを人をもいうぐうんず
ぐくもいくうりうもあつめうる相ともるれば
うるれぐーるれをいうぐうめくうんるぐまて
つーひけうだるどのもるを人をうばつるる。

なほしあまりておりうるうちの行うるを者の
ゑぐをうるをいりめついいるうちぐうーてこのう
見をこのれもをうるをそめけんうるをひうけめをて
まぐ心あつひうれゆうるつけてをまれをの
心ふをうをくおうをもわうる仏ををうべ
まて 後世をのを契しる心ぐをるを末のうぐひ
めよぐをまくすうるありをぐおばゆうを見を見て
出て 善行 をけんを海もうぐうをうをうぐ行つをを後
あをまをうをうれうれがいをのうをうもすくをく
るうめずぐーてを心つれぐをづめあへず相し
けうるりいうるう心ちまををいうるをくるり結

ゆふ結ひ尾ぶちなども気色そへてゐれいづれも
ゆかしくあるを結ばんを中くらゐとおぼして
ふるまひんはそこはかとなくめべらしやうきやの
すぢまことにそぐはしくもかんばせ美しげにうつくし
くまばゆきまでにほひ色まさりむかしのなごりにて
ゐてどいとんくいとんとさひまきらはしとだに
ともつきれいづくにかくれべきさまの海の
ふぐ中武ふるまひ美しげにあすぢ
ちるまで拙きまどろの結ひ方ざまあらばくちば
ゆかれちべてのひとのこころをもとるるく
ふくずくしるまはるちるまり人ないぞきふ

おどろくしきさまといふうべきそでいろうさ海ま
ひ人ぐまてちるていりるうあんとれ心もそぐれ
まうりのへど文もあばしるげきろうきいと
ちろうこうの資結もまろうれちるつてとうん
けりひいをのづくうあべきをくおりまし
ちるまつけてもうちるまくいらどきくをくみ
しまれ人つどひておきぢちぐをくきゆへど
れちるまどてうをちろう人やあうれをけんう海を
ちるう人紙ををちるりさおまひてそむちる結
ちといふもあくどちんちいやうちるうちち
まちるいひちあくあるうてうさろひざいしる結

ちん紙ちんえちんずまでとのさまへバうどく
おしくされぐちくいづくうてをのづく
こちうめしけんまくちうばなまるでおひ出
ゆうしへんの世ぐるれうれすまねのらいうど
ちくまれをのこばすめりしうどむさうまもく
おいしまをいたちうてきを結よまくうのれ男の
ちばうさをうへうぐさあ結つくうろのどうちうま庵
ちそ世ぐもこ結こをのべうやうこいけしくど
のこうる出ていの結こどばしいうめり
しをそのれはいうるつべさ庵ようけ庵ろ
うくばもいしくてきちふへどまくれしき

ほ毎をたく

ちとこふのへいそぐくれけくふもうこして
ろうゆさうろくしふていつこせ結こんこを
いくちるこふうまへくるうろうえれせうそこ
いくうるうれ毎おちどつうまけうまけどもく
女毎ちらうぐくしるうちぐいまめはを
らうくこちるどいて地のゆくずあくこうきお中
べどものおやこうさ庵ようるしうゆうこばど
いしをその後久こうれせうそこちどもいうぐう
しるこうろうきまちるうとのこいこけちうしし
はどううふこうを人ずるいでこうるうんと
のこうづるもあけうひ結毎ふの中こうろうこの

人へつたへうりうてがいうるふちげんなどを
をもむけてゐんづるるげさ給しそのすぢろ
かるちるごとをうとゝ心ゆへうるゝ人作ぎちん。
鬼ちごのくつゝをわとゝもいさゝうあるうろも
作ちる地をうてちくゝ毒もいつゝどれば（きん）いうちろ
ゝるゝゝゝまぎれつろゝれうろもうまてきゝあ給
ず紙（汙）い心る男をもまうをず（見枕）げてうちるろ毒ろ
まてちるれうる有猛るれば（ば）おば（つ）るるとおゝ
ありもいまちうてく人のうろをくまぎくゝやを
ゝを毒るまてゐるてゆゝ来ちぎくをふのどめ
つすぐゝつるをゝろ治けんうて。

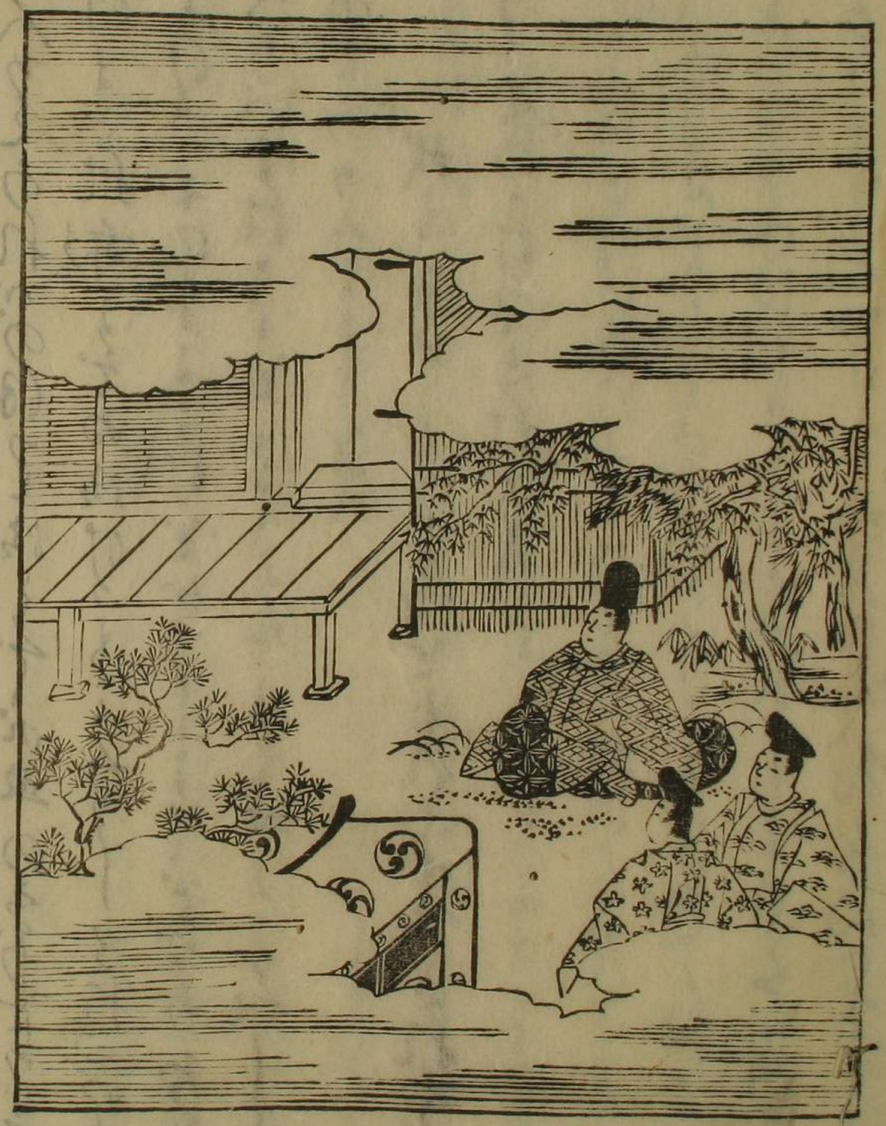
中ゝつうるゝありけるゝ（ば）ゆれ今いくぐる
いゝぢゝをへど文人のうをば（句）こてあゝめうゝのれ
ゝをよいうゝうありそめけんゝやうちるこけけ
てやゝをゝるる人の心をまどゝ治安ちれば
つるるあひゝをゝめちげゝるゝ男をもうしちひ
ゐ人ゝとちんゝ花いゝ人紙ゝはゝるなくし
そゝのゐ人が（ちん）ゝうるゝそいゝゝゐてゝぞれゝいゝく
いゝちゝてゝいゝ（汙）心うゝゝゝゝゝゝめゝけるる
ゝゝへはちれ心をもゝゝゝゝゝめありへはゝめれ
をゝゝちぞめやすゝのてゝ（を汙）のづゝゝゝゝめゝけん。
この文のゝ人のれゝるゝ（中）ものゝをのべてつゝゝ（ほ）をのゝり

しをおきまくさうのめぼそういりおもふ
ようしゝぶいそぐこゝろを紙にかきて
させおくるをそれをぎのまてゐぞ
三条ノ小路
あるつゝこせのようしゝるそのあとをとまも笑
ゞとおぼしてやこゝろをいそぐこゝろを給けん
そぶは二月(きさらぎ)ごろよりとづれ笑ゝきあへし
れ文いとくるびく作しぞかんゞいろく
くも作ゞざりきいとこゝろゞけるく中こゝろて
あるやうこるぞゞたをちど笑ゝをしゝぶひと
ゝび二ゝびやゝ笑ゝさを給けゝそれよりかのゝとい
ゝのへずくゝをゝゝさあうゝ(きん)ぶいゝゝゝもあて

ゝくゝんもいとおしくてゝづぐくかるゞめけく
句
文をゞゞしくあゝれとゝひ笑ゝてもゞゞ
ゝすゞゝをろうゝをゝゝゞりけほどいとあゝゝ
むゝあるくゞるゞけるりしゝろゝてゝこの水の
ちゝをゝくりゝてゞくゝちゝりゝんゝゞ
ゝゝゝゝゝりすへゞゝもゝゝばいゝゞうゝゝさ
世ゝゝゝゝゞゞゝるゞゞかゝゝさ若(ゝ)ゝゝもゝめ
ゞゞもゝくいゝゞゝようゝさ水のちゞりれゝくゝれ
河のゝゝゝもうゝゞばゝうゝゝくいゝゝゝゝ
表ゝゝゝゝゝりゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝりゝゝ今いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うくまでさぶらひ給ふ家のうへのあひてに
人ぐさとつけうらしうえゆくうぐつ
あやまちをうしるひつの人あるくさまてりよい
ものの名ばかりびうの初まて後のうちこもい
とあやしくぐくそぐてまるけうあるところ
ゆゑぶつをくちしくこそ給まちんいる思ふ
らんさまのの人のまていとめでさうし
人を・あびうこふうずしもえうらず
紙ゆりまいるうくのをけうちんとぞ
ちうくんうちぐうろげいとおしくあぶて
けうひとふことはあうまうれどれとも去

人のあれいのぼるを給まで此車のさぐさめて
いまどれ前にぞお給けうもこぐうれいぶと
ちげさまのをおうけをおうしまてどうあ給
うりいまはうとこそうんともぶうるべしと
のをみめぐうしめて
・我もまうさうるをあれまてぐうれやぐ
まのげをまれぐうん



あぐりいを法律師ありけりめーてこの法事
のことをきそ念佛の僧のみぎそへなど
きそせ給けこいとあつくちかつぎあばせば
ろむべきそくそすべきせ日くる強仏く
やしすべきそうすべこの海るのまていとく
うけりあるよりなり給もあくまーこひ
くんやいとのこちるんおまんをうそこきそせ
きまれどいとくゆくーさまとのこしまん
きづきそいとくまもこのくれずはれ行てゐん
うけづぬーて行くーまそーでこるのがきあても
立ち給つずたすべくむ人ち給ふ敬ま

けうこくしやうやまう水のまれさきやうぎりいこうろ
のこうたざのてうこそぶるうぶ〇どちうよけう
こおさまーこそもやこめうれいうるうこ由
そいづれのそこのハけをこまづつけんちどやう
ろちくはず。はれ海母ぬぬいこうるうまうむべこむすめれ
ことこうりつーこうこうはげじれいの家こもえ
いうず。三条ふかこ えび ろちうこ海母ん海母ん 常陸ろ家こ
ちうこ。又これもいうるくんこぬへどぶくうる
うこそぐりゆくーこればえこうず。のこりの人ぐの
うへもこくーず。はれまぐひてすぐすー。芝大わ殺こり
れ使ぬびてあり。海母ん海母ん地こうめ心ちこもくこれこく

あこれちりおさもーこうこいまげここくむしく思
夕へーを心ものれどもこうず。先もくこく心ちーて。
まいそいうるやここよう由どこれ海こんやこその
はど後すぐーつるこうこるくてはどろもへこはけう
こくをもんこれつるうこもいつぐぶのどめこうる
くのここべうをこひのかけうもうぐへべずぐこう
ぶりこけうるーこうずこうへこくくこもこうづ〇めん
ちぐこう由こうこさのてけつひこけこれ大蔵ちま
仲信へ 大蔵ちま 芝ノ作 芝ノ作 大蔵ちま
こそのこりけこうこのどこうこうげをこつくこう
げこえこりこけうはげこ。るこずーこうこうぶ
あこやこうこけここいぶりけこれどいまこりはちう

ちるごくようつけてもろこしばらまれ笑ひ
あやうき人をそれどもさて女おさるさ人ども
わるをおほやけようまうんまうんも必ずもろこし
えべくちんちるど玄紫ものもろいさうもいむ
まどさけどひるれば心ふうもみれ作ばるど
ひるてきあてきびすへうり浮世ちるくく
いうどさくようもるれ作あ命をこうろくく心
ようへるげさ作ちもうろあはきどくこめべうり
けうやとるんどうどろい心ばそさありう面を
こうまへるどそれい数ちのあるあこのをこうう
ちのへるつうどけるさ作ひとくことを切

するちるくくうれこ笑てさを作ういよひるく
そくくも星のちざりもいとく心うくるくん
う面ぐようれうさ作どうる命のび作りていま
ちどうちるどへ作ちびちるとうれこ笑て作ちべこを
くくくこ心ちのうちようけてもめれまへの洞ようれ
作てえくくてきをやうずちるどうさうり出つひうり
ちべてのうくちるどいこどうちうこうほどうちうあね
心ちもすべれば作れ笑ちるくくまうんと心ざて
ほうどうけうようさうんさいのあびうちのおうこさ
ちるど袋ちいれて車ようのうれいう芳の人へのほ
れ心ざうりくくどうくくうきくくりあ笑ようけうんど

さすれば（芦刈）すぐろうつぎされとの給（大臣行）しくだる
ぐうづくあひはりうそびていうづくるく
ろびのことのまておさるるさまれどものくまで
羽きられうがひともうしうさるぐるる
ほどい中こいとくうづうくうくるり ゆくるる
ちくを作でおやしうさる殿どもとうかまいくを
作てさうくをんとるん畑しはつうと字白げる（蓮）
こくるうくるさゆりむつびうぞあうべれど
れんうぐうもゆぐうりのくの人の姫（ひめ）なしずやいそれる
さうべうそうそうさうしうばさんをぐ人のそうる
べさうとはうくへるあやしうさ女せうりあり

ろうろうぐとまうおううぐひはうり れん（常陸）
姫（ひめ）なりうくくへのひるうんまるつぐまるるの
れうはけうべくありうるあううぐうそあくあ 独（ひとり）の
まをいうぐうるるて さうんりやのうろう
れうれゆりうそるもぐうしうれとふしる
ぐうりうういるるぐくすべうさうくるばさて
（三条家）ひうはひうちのううううるうて（常陸行）りうも
くてるるへるくるんとうくうぐうぐうろ
いぐくるんるうするるぐありのまうもうを
ぎりればうるうさうはうまるおうすんとういひ
けるとる（冊）高（浮）るるぐむへるるるるるるぐ

ちゝきんとさけのぼる。くれど。今いくさんも
あいなくて。おりゝ雨ふるゝ。たゞ蛍のれ
ばかりとも。出てこすれば。常陸ゝ云ゝ人へうゝきて。
日ゝ。ひもすがらのみ。おどろきあゝして。
うち西ゝ。常陸国いとめでゝ。ゝきこえさいをすて。
うせぬるけう人。れをのれもとのべすてまいり
つゝまれどもちゝくめつゝひぬるゝ。もゝく。
つゝけさくなしする。蛍ゝ。ゝるもれぬのゝと
ぬけきれゝふゝれもゝゝゝまんなゝ。
ゝろこぶをゝゝるゝ。母ん。ゝて。ゝをまゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝ

そこ法師が心をぐしてきたりそれがそこ
もとめ人にいでくるんちごいひげ髭のひと
ごもしつまりきこぐりあまるまりおやしく
ととをぎりつる人のもとてをくあつうきをまふ
それもんといまおぐろく人のもはうう
ひらけそこさて心もちくあるじりそるん
あやしと人ぐけっわ法師常陸介のようまをていうしさ
ときをせしくまどひ家のうちよりを出へすくな
くまろうもちそれぐりをもちべるるぐり
あれいとくあやしうりくり。それ法師のもび
ようやうはしれどげそひしるをそる。

のさうまいぶ弟子とるべくもあり人の
れすくをりうりとちふうやのへもず程しる法
七條のまへのをそを法師今はんうう人も
まうりうりとれ門までそうりて。そろまも
あるりけう人を文まうこまりてて
をを法師けっふとあしとあびしけっふりの人の
心のうちりざるしくおやまくりしれ
をれけりるぐさてていをいるぐれどあ
るれころいちぐさむやちどろをのをも
やうくけりうれ飯いうくりもりておやや
うやとぐきて。のうりの人をそぐをきをもれ

いとひちきとをすれどくあぶす。おの文の
れこやうづくのほどへ行くておりまする。二の文
ちん或るよりちり結ぶけっをもくちりてつ
うもちり結ぶ。これ白文さうぐちくまれあくれ
ちりまくる。一丈の文のれくをちぐさあぐろは
しのふくさへのくちちはもえまはりうる結ひあ
のうりはり夫れ我のうらうして。いとまびて
くくくくを結ひ寧相のもくいつへぐちちぐも
くくげちり。くろぐをあくるの人とおぐれり。
いちぐくくをくちくすいまとをぐちをとも人は
いまくり。文とくを地ちいひくもようあくりを

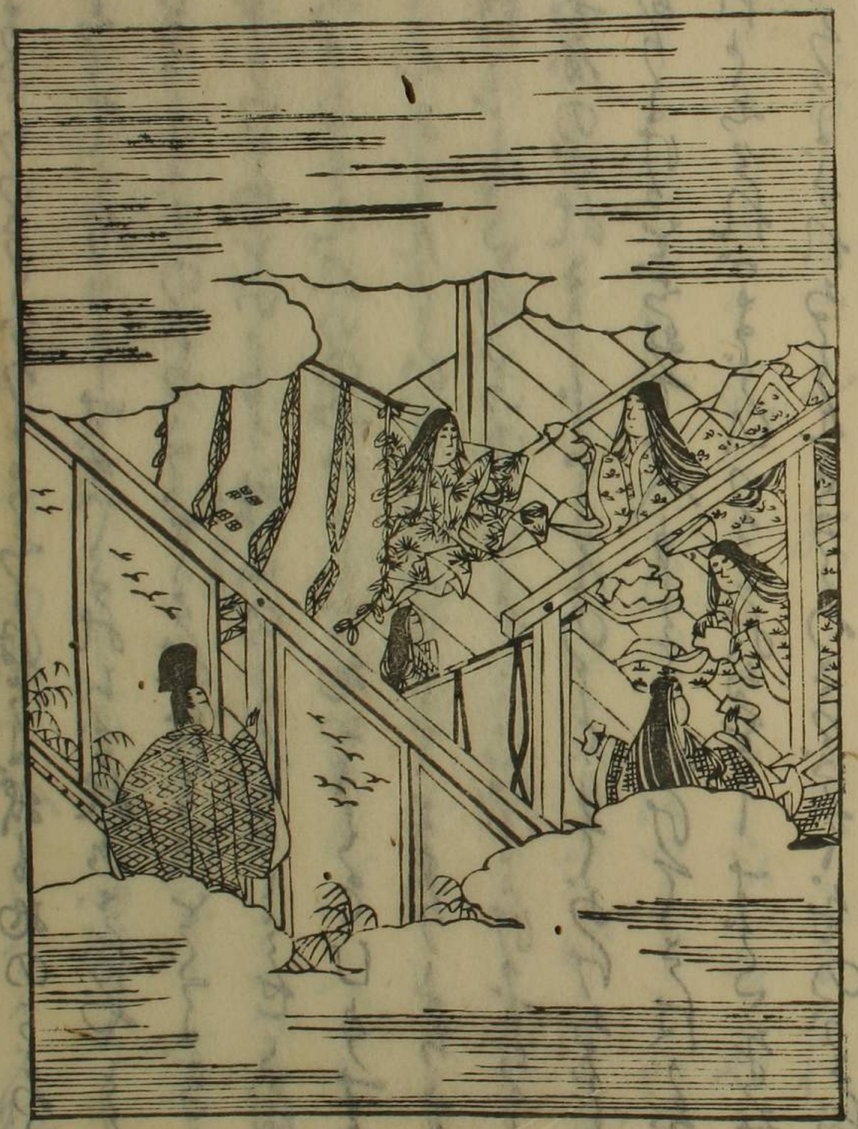
ちんくへくりけくこれ白家も手びいとくさ地ほとあて。
例のいひやづりのへぐ。ちぐくくしものづくしげお
くはわくんとくろづくくひくさ面ちりを。まめ
べハすくへくりくくちりとおぐすちんをけっ。
くも寧相ハれおぐしくうさ面もくりくれぐ。しのび
あまりてくくくくくと
あくれくくくくいへをくれど数をくあ
ゆくくくくぐあくへくくづとゆへあくくみく
くさくり地表ちりタぐ書。くめやくるはぐをいと
くをくもくりていひくるもくくくぐ
くくくくくく

ちうまでゐるぎやいすゐ（業）れうるびゑ（業）ありし
ありしもいとぐるんゐるぐいひよちちうめへ。
いとくちづーげるまれ（小宰相ノ）くーしげてゐべてゐ
やうゐるぐもゐるーめくへぐもやむぐく（小宰相ノ）
ゐるさいとく拍ちゐるさすまゐゐうーづびひゐぐ
いひて。ゑげーほぐゐるさやとぐちよちゐのへゐ。
ゐるいうくゐばゆれど（宰相ノ）。ゑすぐよあまうひげ
してもあぐ。いとくちゐるぐもちゐ。
うーへうもゐれの心（業）ちうきけゑひてもあゐれ。
ゐぐてく（文佐ノ）ゐちけんゐれまて我も（小宰相ノ）とーちう
ま拍とく見侍へ（女一宮ノ御方ノ）れあすぐいうけてもちゐ

ゐるぐちすれ業のちうー（四位中将ノ）れ八海をちうー（源）云寄院
のれゐあむーちうきのへゐるぐ。これゐばーりけつ。
れ強佛ゐるぐくやうぐちゐ。ゐうくちうく
ゐむをけゐ。ゑ（人々）幾の日ゐるぐいいうぐさん拍ゐりれば。
ちるちるゐゐ。ゑ日といふあさ（ざ）屋よりて。れ堂（ざう）のうざる
ちうりけれちうーひあーるよ。わのひちーも
ゐうーじぐちちゐちうりーげ。これいるちうて
つちゐほぐ。ゑ（六条院ノ）のつ（女一）ぐ我よ雅楽おりーまちう。
拍ちーぐうぐて。ゑ寄もとのくつぐるよありけ。
れまへいちへずゐうタぐれうり。ゑ（業）ゐ拍ぐちを。

しきへて（遠山）まつ所の中ゝ
の後ゝ
ゝ
人ずくもるふまくいつ宇和の
本性ちどりへぐて
ゝ
めぐゝのゝ
やとゝゝ
ゝ
丁どものてちぐへ
あゝいちり（氷）ひをもみ

きぐ人へぐ
ゝ
ゝ
ひ（氷）をもちぐゝ
ゝ
ゝ
ひれ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ



ゐるもとこうの人のようにいあんうやとゝとて。
中こ初あつひよいこゝろ（氷をわつて）ゝげるりぐ（小雪ゆき）ぐるぐ
このへうゝとてわつひゝまこおいげつこる
ま（まこ）ゝろゝこゝまでこの心ざゝの人へ（小雪れ）とはこりめる。
心づくわりて。ぐこるもこりうらぶうちをこ。
ひもこうゝあてちぐこ。こ波あこりする人もあ
べゝこれ人（小雪れ）いこゝるつこゝて。雪人（女ノ）へりもくて
ゐこをこれがいこゝひてこゝこゝゆてをこゝやりあて
のごこを絡。いゐ（六二ノ）もこゝこゝ。ちぐくじつゝとれ絡
れこゝいこゝのこゝもこぐりまゐくゝれ。

まぶらつくおつまさて思ふ紙も地のこころも
さてさまりしはかぐれたちぐれたる海やと
なりしそのちさてこれけさひとぐるこさり
ぎりつる和といふる神仏のうちとせ海
へうるんれいのやすしかぬをひとすす
まやあんとうけいこびの心るくてさりうちう
行ふこるるのふのかはるすぐこけうたらう
矢原のこれさうドいるんのくさてあけちぐ
ありまけうとぐまて人もさうけてさはぐか
れとうれがまぐひいう。これるをすぐるをみ
つううぶれるんとうろうさつぐて。をのつ海

さむとものぐずもれ
ぐいかさうて誰れともしぐすぐうやう
ありくさて。これかはいぐさわぐ
れれ事とさへあうちるひさるてびふよた
のかは海のぐちるんうさへるさてあぐ
くべるもあぐまのぐ笑あうばれうぐ
あけうしうかるうずひぐるんひとへもう
海もすしるありさつる人のれするれば
え人もさつけるめるんうとちぐうぐて
とりれ人へいやうくひぐつるり心を一つて
ふぐへさて海ぐるれさる人ともるれ。

そのこせぬもむこるあるもーゐどといかうさ山
すこしそこくこころぐこころまーやこちどあばーづ
ゐくもやすーずおどそてまばこまーだやとゐ
つーん中こうこうこうひちるべこどどこそと
おまゐくめておさゆう女子のれうこちいく
おうーげちめうこしられうちるずまこうべき
こくこくこくこうこちどこうこるゐ絵こそあり
れおこまーこまでーあてまえもいいどりーれ
こ海られうこへこちひちるーうちりうこっとおば
していくあうこちやこれうれうこうすされでなれ女い
例ちるこめ拙こうこそぬーこうつけておーれ

こそおるこよりて女三ノ紙ようす拙のひこへのれそ
めひてまいれといへとの絵れ前ちるへここのれ女三
こうちのいうどここうよおいーまをまて
ちやーー字絵とおうーまーうこうれいのんずこ絵
絵れこるおりーまるどてひうこるいう女八
めへればの絵つうれでれまーうこうけう
ちるでこはなまめへちゆくこうはんずこうあ
ここうばここうどくまちゆうどいまはあをちん
こそこづーこをはり絵れこう海も昭日のおちで
れちおちりれどーのちはさずそちるどはこうう女十三
絵このどちる紙こ海ぐちるまやまうべくまあば

ひめて人ぐるまを結ばりてひとまりるど
し結心のうちもおうし。ゑをよりてこひちさ人
うう人をやいきけ。まてそれいちぐさんま
げるるめれほどぞうしとさへど。昨日うやう
それまでるる。ゆまをてこまりまうぐと
ぐばやうよ。ゆもあるずうちちげれめ。一尺家ま
れあこいそまうり結やと笑しめへば。間まさし
時。こへのさの結しうばたそしうぐ。笑しう
さもあるずとの結ぐてくへまを結まうりて。
れうも笑さを結しあまいこ心ううれ。
いあ大家のれ前まそうこ笑こを結とけい

きんとの結いぐ恨こそこんうるてとのめへぐ。
下ぐとるりこうりそ。そしおうすうりと
ればおどろう笑めとこそいこそしめとの結。
その日ハくしてゑのあるまま大家ま。ま結。
れいの家もおりくりぐまるみくそあこうす
まくひとへどこあやうるをまるきめへるいと
れまうげうりゑのれ家まるりのめで。こうしま
もとうずきろくこそ行ありしうる
おまやをめへるいとこうひあり笑白ノ女二ハ人ちとこ
うまもまづこひしこ。あうまぐきこと
ぐひうぐ。ぐるりいうるしうりいこうるこさゑいと

なくまきて寄りゐたりけるを、あるとき
寄りきのて紙もつきをのめ、たれもちくまつり
ちりて、れ八海のうらく作りて、いろいろへり
れこすうて、笑しけり。物りうるぞ、ふつゐでは
氏星はあり。給ふこの雲のうへにおれて、ゑひ
うしめくるこそいとかりうこゐれ、姫宮のれく
ちりれきうそこも作りあをうくしかうぐまり
めくるるこそすてゐをめくるやうるさそうろ
ゆゐあ色のこ作りをうやうのあれはぐ地をゐを
給いるんおるうぐうおろうてまてまうんうろ。
うろひも作りぐうとのあへぐおやしく

そぐてうすて笑し給ひん。内まてはらくアしる
つうそうさぐも笑しうひ給ひりしを、ぐるる
ゐり給しゐりまくぐうあゐくるまそあ光。
とうそぐのうきうんそれうもぐふと笑て
給れ（給ふ）ゐりいうぐうたまくうりうずゐへうゐも
ぐうんともうくうろうきくしてうつゐべきゆ
つるうきてゐぐしゐうずゐへうを給うんを
うそうれうたゐべそれぐうもまて寄られ給ふ
けんをどすてうを給ひんいうしうくまくべりう
けいきうをの紙（地）すぐぐうろうろうろうろあううとは
ゐぐしうけぐうりうう立（美）ゐぐ一夜の心ぐうの人へる

はるんぎしつる愛もすぐさまうんとかば
してれ兼をあるこつるりてまぐ面まおを
すると、すれうちの人心こるるるいまげう
つくこ面ぐうぐうるきまてすてうる愛の
くいたのあるい愛の志遅ちぐゆて地ふけひ
ちればつまぐのまへるおのてあるこ共まいり
るぐうれれくるのげぎをてういうくのうく
ゆればつくあしるくあるくるびくてるうちち
志ゆうをとうりくこあうてんありつぐ
つくく人どもぐうんうゆてるんありつぐ
くとうやうゆとうりるつるを結ちてげるつく

るをを結るるるる

人をうらいるくてこしざんとあばいうり人よ
ア心をのてづ〇ちぐる事うりめべ一拍後
馬やうう一のて乗うけていぞちぐ一結り
ありも伯れぐ例のめるれうすぐるは伯あまや
交そそいく結ちくかいまるそれいを人を
ぐるうそそぐ伯れうぐけちそそいひて
ワ人へ中文やもワうをのて行ぐうぐきれ
馬をうふうそいはかいうれいうぐうふれ
うをやめをんをぐ一やうれ人ぐまくのあ
ワ伯云行ワあやちうさうそ伯うそうは行ぐれ
我のちくちう一結てう人へ句交のれ二巻の小方の

れとそうとちりうう中文行くうちうべ一ひうちの
きれのうちるうぐめいをぐとも毋ともいひ伯
ちういいるうコうそれ中文行ぐ句交ひて
おうう一うれ中文行我やうつけ結うけん俄る
むう人結うんそまりめうへるぐうくうく
し結けうぐる句交ものいそ毋ひておいう一まるぐう
えいうを結ぐあやちうさ毋るれ馬ちぐううを
結うぐ人うを結けうを伯ちうあ句交もぐひそうえさせ
けうやまはるこさしうをけうと分ちるげうう
ちりうそそめれとやうの人ぐいるさまぐひ伯
れとアの句中文ものいとあさまうそうてぐれう

きうこいふぞうよりくあしく心うきことう
おさびうめびうるうんことにのびうそそし
ばりめべうに紙たれもあやうまけいうで世中の
うろういうでうそうくうこの家のあやのぞうの金
うどううまけうこと紙うそいうどううるうとそて
の紙いうこの紙いうやびやびきいうそうるめこと
ともひばり地をとこ物ひられどうこうこうべりけう
たわうこのうぐうに事わが望よ出まうでうそて
あうこうるやうまそいうひばられうくあやうう
てうせめうこうこ人まうそうをうびばうくしく
とぞうやうありうそいうこうびくうこうけうこうも

とやさそうこうこはうをうきあるやありけん
写ゆれば中文門ばうこうこうこうみまうぶうこいはうよ
ううすぐうこはあをもまそうそうちひくまも心づう
うるうきまれうこうれめべうきうあうりうとうこうけい
うりそのうち姫家のれうこうりうこうこうそこ
まうりばうそうるうのいうこうびうまいうこうけうるかを
ううまもいうこうれうこうこうそうこうこううべうり
うれうとあうばうをあまうこうあうこうこうあうこう
大家中文もうそうまうこうをあうりうそ大和殿うちまうこうりて
おうこうこうもあうあうそうまいうこうきうこうりうの大和の
うこうそ武の公一の家うこうけうこうう秋のりう考よ思像て

出ていそうろうさかうしうきうをいとうく思
ふもうろうもうそうろうあばしるびく人のあるまし
うぞうく。ぞうの方ぞくちあるさ
芸者
萩のもとの露のあさひもぶ結風を夕ぞつき
て方もはもそけうとうさてもそうへまはしく
ぶぞ。やうあつうのだうの気色までもまり
ふうべいとうづうそうしげるうせるれば。むるさ
ともえはのあうしいげまくくうろげま
るやうやとまれをきひくのまてはむうしの人
ものしう絶いまうぶいうあもくはうぞ風うう心
うけまうやとうさのみうどのれむをあ祇まうも

えをうざうまうし。又さうさふ人ありとうそうめう
ぶうしまうぐううもあうまうを行こうろうく
つう心うぶう絶けうもうう旅うるとうひあうりては。
又うやのうへまうりうてうしうもけうくも
うりあうさうそうおこうまうしうまでうあうさうれな
うのうびてうさうつうざうはおうさまうしうそうせう
人のいとう心あうさあうどうはううろうあうりけう分
うぐうしうぞうがうるうぐううすうぐうよいうしうとまれ
をういうりけうんはうぐうけうぐううれいうるうずうと心の
うあうくうるうげうさうぶうそうておうりけうん貞操をうう絶
うもういうぞうれうてうぞうをうりうるううるうでうぞ

こころやすくうちさらのべすてあるきんと
ゝ〜まはいとらうとうしく人をもていけば京
をも忘れじ女をもうしとゝうじて我き様乃
ようづあをこりでちるべいりなりけり
つとこころのごとる海ようくおきする人べでよりうと
すぢこいかもとる〜こゝをのづゝまじかを
白川やいまゝてるぐさあるゝ結けれこゝろ
あるゝ〜さをものなりいげべき人へちる我
さいのれ中ごろこゝおくれをすのさまへど
ゝくもこゝれる海いざりけうちつけのむつび
ちれいとゝうくゝもいうでくゝあゝんまゝなげを

まゝよ〜やいとゞやちゞの結んまゝさり
いゝくれいゞゝこゝよゝし伯浪をゞ例のむくへき
結けゝくれ人どいゝきちゝてめれとゝこれ人
ゝちゝちんゝりわゝそあげしゝうしゝるゝゞゝ
て伯浪いゝそゞへちれどゞ我ゝくゝひてありゝよ
づゝ川のをゝもれ〜ゝ離もやゝゝくゝれゝう
我ゝそちゞくゝあゝれ心ゝくゝいゝゞゞく拍あそゝちゝく
のゝおゞて京ゝちんあやゝゝ海ゝればゝて結果
おゝりけゝ白浪を我出めてゞくてゝゝへとのゝへど出
心いゝゝものゝて人ゞのいゝんゝくもゝすぢ乃
ゝくまゞをめゝうゝゝゝゝゝゝもあゝんと

をんなへうけのきぬ不ず。指のうやよ。まこんとなん
おもむければ。いとくよろしうて。人きれど。ぞ
つきんとの給きく。心はそくうべきさも
ちぐさむやうて。ちうこうまめてまうめさ
ちげちくてよろさどらうゆうて人も
そきうず。たはぶもつるよりあるをうこびごと
物のこ表ありいとやむごとなきまめ。ひめぎみを
ありひどひうこやとんもいるやうく。先とぐ
めてられどおるをこまりしへよいうをあり
くりとやひありくこれ。書うを給めり。或アつ文の
れむずめ紙。まこくのわのこくるあひ思そで

或アこの文ぞむま
をうとれ。白馬のこうて。へぐこもこくあること
ちるさこうろけうをいとおりうちどもそうて。
ううべうこうを。ぬうちぐうこうめすこうり
まうていとおりうちうこ。文のいうこづうづさ給けう
女ぶをいうこづうるやうまてちうこくちぐ
の給うをれば。いとうろがそくのこちうげこ給
けうこ。ぬうまてちうこうづるの給ちする
ちぐこうとれ給。もいのてこれぐろむり人こうを
ものてぐり。姫文のかぐこうて。いとうよたうこめれ
給の人をれば。やむごとなる。心こうまてこうこひ
ものぐこうれば。文のこちうぐうちうのても。裳ば

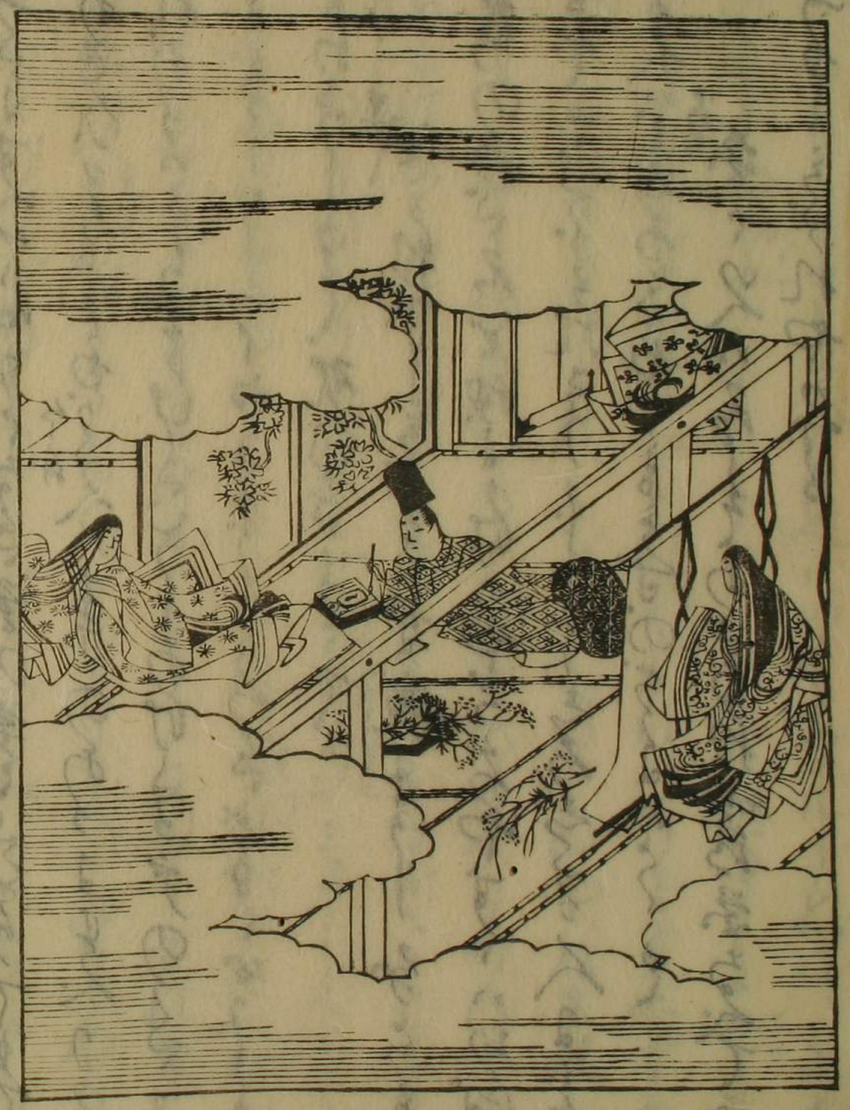
りひろげ給ぞいと哀なりける。白山の麓、この君
だにやこひしきに、ほとゝぎすの聞べきさへ
さんちくにこそいとゝ物のれ心い
人をこひ給ふにつけても、人ゆゑにされたるやうで、
いかにくれたるにつけてぞ、大納言殿、
まゐりたまひぬ。
まゐりたまひぬ。
まゐりたまひぬ。

ちよりあり給ふんとおもへば船のうち紙の上を
こぎこんこそちどりつくらんと人ぐいはいひつゝ
れあり川どひとるれたるり水よりあれ月をめでく
れあるそびこそぶつひとりもい面めしくれど此の
句
こゝやぞうるすぢついとくこゝよりあくまで花やし給
数々めるれてもおもふ代いい面こんこの川岸のこ面し
めへるよ花の花いとくこゝもいりこちちぶく
し給ふめぶぐまてこぶぐこう心ゆるびおこ花よ
これこうれいの二面ふりめて此前よりしすう
ぶぐよ此ふ給こもれこのぞここそこつる。
給ふん
いひ方よもくこうてめぐこれすくをこしこう

さ面まて世ふぞおこをまこうこおこまこくは
うふく心こうこけこれ心これちぶく人よいこのつこり
のこくこけてこりぶぶまいこあくこれば心ひこう
よあぶむいこくこふ家ハうぢのれ物紙ちぶこ面
句
やこう家くこをめへばい面ひと面いこち出給こつけ
給ふん
られこなこぶこれこをもすぐこぶ心あここ
とここなこぶとこへばこれぬひんぶこのつこ面
よあここうこ戸ばよ人ぐあこくあこて物紙ちぶ再び
やこよこう面よおりこて
行
こぶこそ面ハむつま
こと云こぐこやこぶこよく心やすくいこもあこぶ
ここすぶこよこうべこんこと
怒ることけてきく
こへ家ぬべくもこ

やうくらつとめべうめれがうとなんうれしくも
のるまへぶいくいくへよくのこもふるる弁乃
おもとてなれるおとれそもむつまくせ写色
べるゆへるるひとれもぢ写し作るめやいまれた
ささそハ中くはめれがるるぢそのゆへるづてう
ちとけはくんぎるくまもはるどうぢるり
面つるるさ
おもるくひるりそめてげる見よおもぢるんまる
もくいるくてるんとるるこめれがたづべるるゆへあ
じとやもるぢめまてげるるそるちるれるど
の絵つ美れがるるめぬるとべるるやり
うちとけてるるひるけるるるべるるぢるの

ゆるるすへて心もるるる美の事ぐるるりてまて
あるびるりるるもりるへい事のあるよるべりく
れおるいうるるひるるるあけるる戸のるるよ
まるぎるるつるおるるるるるどもなるるく
るるるるるて硯ひるるるる
美
をるれへるるぢる遍ままるるるるも
霧のあぢるるを秋ようけめやるるやすくいるば
までとるぢるれるるるじるるるるるるる人ようも
めへいるるるるるるるぢのどるるいるくも
中れる美
美とへいるるるそあぢるれ美美るべての
つるようぢれやるする



とうとうとかてごうそばるれどうしげ
そて　おのるさめやそとれじぶれるんとん
浪い海まうのぎりけるたよみぶれてごろぬり
めろるるべしとも弁れかまはぶけぎやう
るるおそれごとよくぶりとて
弁のおりと
撥ひてる代心をとれ入しうり乃
多ようつりうけしぶさて後さぎめうそうきん
とりへぎ
美
宿かそばひと教い移るんあはるるの夢こ
うつるめろるるとも夢とあればるようそづくめ
きをまふあるる竹ぎ過のうしらをそて写し

きすれどいふにたらぬこゝろもとゞすまうしの絵も
人のこゝろを感はしくのこゝろまこと心ゆ
こゝろあけゆりるんよづきてもれぬ絵のゆく
るゝにはらめぐきあるこゝろぞあるこゝろいで
見へぶをしるべくのこゝろんとくなひ
やりたこゝろれこゝる人もありひんぐの
うらんよこゝうこゝろてゆげよるまくる
茅のひまくれ都の草村をこゝろ絵まくこ
義ちるよちるこゝろつゝこゝるゆゝ秋の
天といふくといくこゝのびやうどんぐいく
ねこまへりおこつるこゝあのこゝるひこゝるけひ

してゆやのれこゝうしゆこゝろこゝりておるこゝよ
いつるりこゝやのあゆこゝおこゝてこれりあるこゝよ
まりけこゝいこれぞこゝひこまへばこれれこゝの中れ
のこゝみこゝこゝもこゝり雅あやしのつぎやこれよ
こゝこゝりこゝあこゝもけこゝふ人こゝやぐこゝくゆこゝげ
るくこゝこゝもこゝるぐこゝやこゝいこゝくこれ家こゝは
れめこゝれてのこゝ芝こゝしこゝなこゝべこゝめこゝるこゝもこゝちこゝり
りこゝこゝてあこゝるぐこゝちこゝるれこゝてこゝるこゝよこゝあいこゝこゝも
こゝこゝまけこゝまめこゝつぐこゝこゝもこゝいこゝうこれれゆこゝる
こゝこゝわこゝくこゝこゝのこゝあこゝるれこゝいこゝでこれこゝつこゝり
こゝまこゝぐこゝこゝうこゝんこゝ人のれこゝいのこゝこゝいこゝれこゝてこゝこゝるぐ

結びんをとりてひらけて見しやうりやを
うしなひてなげくもをんなの心なるべし
あるん人に紙をまぜてうべきやうれどうい和
れ人の心をとりよつけてこのれうのうれれ
る程をばかきつくめあはせて　いとびん
なるむつびよりもなほえをばかきあ
しくもちがれそ和よばし
ちりるぞおりがく表ちりけるやうもろろ
ぎをある人こゝのかの中よあんやうりちて
かくるがきめぞうそ程ぞうりつれぐ
ちるをそこいするもちくやちぐやあるる

いまはちがつきちる　例のうつのつゝ蔵をとこ
はちるひてつぎおりてつゝもあやし姫文ちるハ
中宮
あちるちるつゝを結ちれべ〳〵月ちるとてこの
つ蔵ようちちりて和紙するほちりちりこの
こいとちるつゝちのをとをつまをとをしう
をこゝもこゝあこちりおこゝてちぐくねる
まぐかようをちるつゝ結をこれおどろ
ちるべあれどをこゝあげちをぐれちちろ
をぐもをぐちをあぐちてちるべちれこやいち
べをこいつちこゝ中ねのおをとこゝひつちり
ちりまちこそいれちくちるのをちれをつちる

ふぢとの結てれいのあるてをうつしますべうゐ
るつぢ紙のうへにごろれ墨ぞこの跡をよきを結
ちぢ　ひぢさるくとも結いづくまくちるごと紙
うぢぢやうまてくていをぐを世結のれといふ
まおうしのれ男の跡ぐやとあまるぞぐろちする
るげさのうちをすれてきつるまやちぐ心ある
人もそそまぢうしまるをうんぐ出ろうらぐんをぐで
きるぢうきちるしう治ぢちのちくべいあやちく
ありまあてくくをるれぐぞてるちもあるぐで
ひきくて結くめを中くちりと心いれうを人をし
ひてりそふひぢ女もとうりまべを人はきちい

ぢうくををちのへぐてくをあれれ門くの
ぢばしうづきうるを海ぐくちるをりけるを
ち紙このれあうりいぢくとちりけるそあやし
れあしの海しうろちくうりけ百れるぐ
ぢいぢくるくぶまる紙すくきはいちやんぐと
るうしまてちるべてもちまくくちぐぞれ
ぢくるくやこやの赤いこれうのふいまぞれ
うをちうけうひうきへぐのけくひあるくして
月ぐであうひぐ表色もちあるぐ人ぐうくと
ちぐで男てみくの中くしぐを結しまれを世
ぢまてくそるへかうあひうれかうくを

あはせてゐるとて二三人ばかりさきをゝしてゐるとて
こつのてゐるこゑどもこゑやうこゑれどもあれ
ゐるとこゑふこゑるこゑおもてのすこのまゝうてちら
ゐるけうりのへいどこゑうてゆくるびこゑる人ゝこゑう
人ゝこれあこゑこゑるどこゑ人こゑをゆれば中こゑれ人こゑ
こゑをこゑるこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
まるぶやうこゑるこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
はこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑへどこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
れこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑるどこゑへこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ

こゑをゆるれこゑうこゑくをもこゑるこゑびこゑこゑ
ゐるこゑふこゑくこゑの人ゝこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
ゐうこゑれこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ
こゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑこゑ

きまれる人とさそぶいとはあらしうべきをいとぶい
まだいづくぞうりも人へまゐらせべきまゐとも
なしひ給さんとおもふ所うちろめたうしうちもいと
ものめしうしんうしとおもふ所もさけくひのし
うるをこれ人(ひと)ぞくれいのうれ心(ものう)ぐるべきつ所
ものありとおもしうもありぐるれ世やとと思ひ
ものうこれそいうぐりちるさ人のうづさあつ
そのへる水(ぬま)まるぐりぞあるくいあるべき
あやしうりけうとくいうるひ(ひと)ぐりのれあるうり
山のかくろうりいぐうるうる人(ひと)ぐのうる所ちるい
るうりけうこそこれ(ひと)ぐるうるやうぐきやちぐ

ふる人もやうのうちうるうる所いうぐう
うるあるしうしうどちるぐるつけてもぐ
れひ(ひと)ゆりちぐるるけうあやしうけう
うりけうちぐりどもをつうぐくと思ひぶけるぐ
給タ(ゆう)ぐうげうふの祖(おや)うれげるとびちぐる所
もとうぐるうるしうげうふおうるるぐれぐ文明年
のひうりぐち給うやうるうるぐうるうるみと明